

生活の視点から国家を考える（話し合いのためのメモ）

■国家（ウィキペディア）

国境線で区切られた国の領土に成立する政治組織で、その地域に居住する人々に対して排他的な統治権（生殺与奪の権利）を有する政治団体もしくは政治的共同体。

国家の3要素：領土（国土）・住民（国民）・主権（権力）

主権の対象？

■誰のための国家／国家は主権者のもの？（国家主権とは何か）

- ・生活者視点：平安な生活を実現するための国家（社会契約論）「共和」
- ・統治者視点：権力を増強するための国家（民主主義理念による合理化）「正統性」

■生活と国家／国民の生活は手段なのか目的なのか（何のための国家）

- ・生活を支える国家
政治の目的は国民が安心して生きられる状況づくり
- ・生活を収奪（管理）する国家
政治の目的は統治者の生活を豊かにするための国民の労働の管理

■国民（ネーション）と国家（ステート）

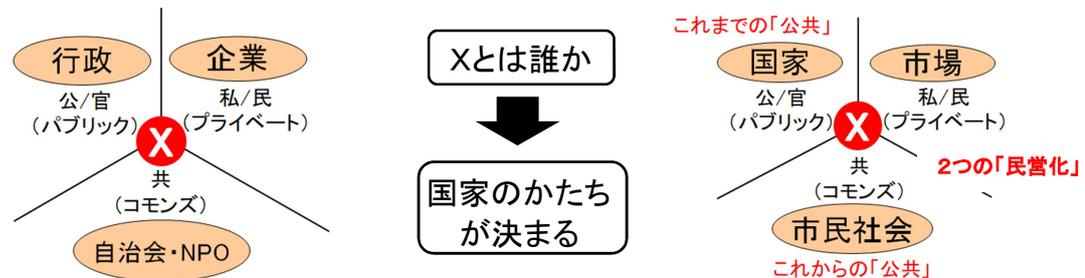
- ・国民国家（ネーション・ステート）：国民・国家・領土を三位一体とする法的擬制
- ・国民のための国家か、国家のための国民か、によって全く違ったものになる。

■国家のかたちを決めるもの：憲法

- ・統治権の正当化根拠：国民からの信託を得るためのツール
- ・生活防衛の保障根拠：生活防衛及び生活を豊かにするためのツール

■現在の意味での「国家」は必要なのか（グローバリゼーションの意味）

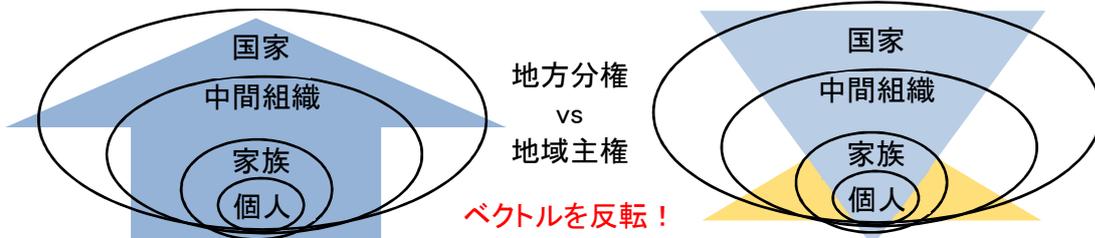
- ・日本における「公共」／国家と公共概念
- ・国際化は国家を前提に世界を考えるが、グローバリゼーションは国家を手段として世界を考える。



■統治のベクトル／分権国家と集権国家

自立した組織が広域組織に権限委託

権力行使のために分権しながら支配的管理



■論点

- ・国家がないと何が困るか／国家を感じるときはどのようなときか
- ・国家に支えられていること／生活する上での国家の役割
- ・国家に対してできること／主権者としての責務

国家と
どう付き合うか